

鑄造機械の ISO 規格作成活動にもコロナウイルス騒動が波及しています。

昨年 11 月号で ISO/TC306 という鑄造機械の ISO 活動に参加して 10 月末に日本で総会と 4 つの WG の国際会議を開催したことを紹介しました。これは 2017 年 6 月に幹事国である中国の済南市で第 1 回が開催され、第 2 回が 2018 年 9 月にドイツのフランクフルトで、そして第 3 回を日本で開催したものです。

現在の ISO 規格化活動案件は鑄造機械用語関係の WG1 以外は安全規格で、造型機関係、ダイカスト関係、ブラスト機器関係と合計 4 つの WG が出来ていて、昨年 10 月末の日本会議では①造型機関係 WG2 とダイカスト関係 WG3 の安全規格は 2019 年度で ISO 規格案の目途付け段階にきており、追ってその関連用語の WG1 の Part1～3 までは目途が付きそうなこと②WG4 のブラスト機器関係は鑄造機械以外の用途も ISO 規格がなく更にひな型の EN 規格がそうであることから TC306 で鑄造機械以外も含めた規格案を提案しているドイツと、鑄造機械に限定した規格としていくべき日本の主張と食い違いがクローズアップされ、これは関連用語を議論している WG1 の Part4 にも影響する③次回の WG1 と WG4 の国際会議を 3 月末にフランクフルトで、本会議は秋口にスイスで開催することが決まった。

そのフランクフルト国際会議への準備活動をしている最中のコロナ騒動です。

当初、日本が大した騒動になりそうにない時期でした。先ず WG 幹事を中国（香港）が務める WG1 で WG 議長がフランクフルトに出張できないことがクローズアップされました。

2 月 17 日に WEB 会議のテストランがてらに下打合せをそして 3 月 26 日と 27 日は WEB 会議に切り替えられた。

WG4 はどうしても日本とフェイスクフェイスの会議をやりたいドイツの強い要望があり、日本からは出張対応準備をしていた。そこにイタリアが・・・ドイツも、

日本から 3/9 に「行きたいが行けない。行けて変えられても日本で 2 週間も拘留される」ドイツからも 3/10 に「やむない、WEB では無理なので延期しかない」

欧州がパニックに、3/12 に ISO 中央事務局から「当面 6 月末まで IT 機器での会議以外はやめること、時期は毎月見直す」の指令があった。

ISO/TC306 はシニアの学識者の方々のご支援があって相当な工数と費用をかけての規格化参画活動です。コロナの早期収束、終息を祈願しています。



① WG1 の主要メンバー



② WG4 の主要メンバー